

# グローバル通信

2014.10 vol.34

Ryukoku University  
GLOCAL TSUSHIN

秋を迎え、身の回りの景色も哀愁を漂わせる空気になってまいりました。気候も穏やかなおかげでとても過ごしやすい季節ですね。早いのももう10月です。大学院後期の授業が始まり、修士論文の作成も本格化して研究生生活にもより一層深まりが出てきています。今回のグローバル通信は修士論文報告会、公開講演会、PCM研修、協働ワークショップ、コミュニケーションワークショップなど前期の振り返りのような号となっております。また政策学研究科で行われている学部生向けの早期履修制度の紹介と実際に授業を受けた学生の体験談なども掲載させていただきました。

季節の変わり目ではありますが体調に気を配りつつ大学院生活後半戦、沢山の学びを吸収しながら有意義な時間となりますよう頑張っていきましょう。(編集部)

公共施設マネジメント基本方針を策定ー将来コストを30%縮減を目標ー	1
地球規模の問題を理解し、地域課題を解決できる人材の育成を	1
修士論文報告会から	2
コミュニケーションワークショップ&協働ワークショップ演習、PCM研修報告	2
早期履修生です。宜しくお願いします。	3
インターンシップ報告	3
公開講演会レポート	4
修了生の今	4
事務局インフォメーション	4



## 公共施設マネジメント 基本方針を策定 ー将来コストを30%縮減を目標ー

越 直美  
(大津市長)

私は平成24年1月に市長に就任して以来、「大津市に住んでみたい」、「大津市をまた訪れたい」と思っていただけのようなまちづくりに取り組んでいます。

とりわけ全国的に人口が減少する自治体がある中、大津市では現在も人口が増加していますが、人口問題は直面する課題であると認識しており、将来的な人口減少をくいとめるため、今、住んでいる人が1人でも多く子どもを持てるように、また、大津は子育てをしやすいからと引越してきてくれるように、子育て支援施策に重点を置き、「子育てするなら大津市で」と言っていただけのように、保育所の整備や児童クラブの充実などの事業を集中的に推進しております。

しかしながら、わが国は、人口減少社会の到来や少子高齢化の進行、地球規模での環境問題への対応など、社会構造の大きな変革期を迎えており、自治体はこのような課題や変革に的確に対応していかなければなりません。本市においては、本年3月に策定した大津市公共施設マネジメント基本方針において、公共施設の老朽化に伴って予想される大きな将来負担に対応するため、公共施設の延床面積の削減や事業手法の見直し等により、30年後までに将来コストを30パーセント縮減する目標を定め、現在、目標達成に向け、鋭意取り組んでいるところでです。

そして地方分権型社会において基礎的自治体は、市民に最も身近な行政として、自ら地域の課題を的確に把握し、自ら考え判断して解決する政策形成能力の涵養が必要となります。そのために、大津市の職員も龍谷大学大学院NPO・地方行政研究コースを受講しております。

本コースで学ばれる皆様が、地域の課題に取り組み、解決に導くリーダーとして活躍されますことを期待しております。

## 地球規模の問題を理解し、 地域課題を解決できる 人材の育成を

郡 寫 孝

(NPO 法人京都地球温暖化防止府民会議 理事長)



今年の夏も、各地で、大雨などによる災害が起こりました。まずは、被害を受けられた方にお見舞い申し上げます。

異常気象は、日本だけではなく、世界各地で頻発しています。もちろん、これら一つひとつの現象が気候変動の影響であると言い切れることはできませんが、気候変動が進めばその発生頻度が高まり、大規模化すると考えられており、早期に対策を進めること（ミティゲーションとアダプテーション）が必要です。

気候変動問題は、地球規模の問題（地球益の問題）ですから、一見、地域での日常生活や事業活動とは距離のある問題のように感じられます。しかしながら、この問題は、私たちの日常とかけ離れたものではありません。このような問題を政府が国際会議で国益を中心とした議論をするだけでは解決しません。

科学者が科学的知見を明らかにするだけでも解決しません。

地域のレジリエンスをよく知り、地域の伝統文化を大切に、過度にエネルギーを消費するライフスタイルを見直すこと。地域の森林を守り育てること。事業活動の中での省エネを進めること。再生可能エネルギーなどの地域資源を有効に活用すること。これらを理解し、一步一步着実に進めることができる人材を増やすことが解決にとって必要不可欠です。そして同時に、これらの行動が地域を豊かで暮らしやすいものにするに一日も早く気付くことです。経済も情報もグローバル化が進む現代社会だからこそ、地球規模の問題から目をそむけることなく、しかしながら、足元＝現場を大切に、課題を明らかにし、その解決に取り組む人材が必要不可欠となっています。

当法人は、京都府知事より京都府地球温暖化防止活動推進センターに指定され、2003年より活動を行っている団体です。2013年に、龍谷大学（NPO・地方行政研究コース）と地域連携協定を締結させていただきました。当法人の職員が大学院生として学ばせていただいていることにあらためて御礼申し上げますとともに、このコースが、地球規模の問題を認識した上で地域課題を解決できる人材を育成して下さることを期待し、当法人もインターンシップ受け入れなどにより、そのお役に立てればと考えております。

# 修士論文報告会から

先日政策学研究科の修士論文中間報告会が開かれました。  
当日発表されたお二人の方に感想を聞いてみました。

## 第一会場 片岡 華絵

### 大学における学生のボランティア活動支援に 関する研究 —大学ボランティアセンターを中心に—

中間報告会で発表することで、今まで気が付かなかった自分の問題意識や研究課題を整理することができました。また、先生方からは、研究として不十分な点の指摘や激励の言葉をいただき、今後の励みとなりました。

さらに報告会後の懇親会では、いままで交流の薄かった先生方や院生とも親睦を深められました。

準備に苦慮しましたが、夏期休暇前というタイミングで他の報告者の進捗状況や研究内容も知ることが出来たうえに研究の課題を明確にすることができたのでとても意義あるものとなったと思います。

## 第二会場 山本 恵果

### 協働型まちづくりにおける行政支援のあり方についての考察 —京都市の市民提案型まちづくり支援事業を事例として—

中間報告会を思い返すと、仕事の繁忙期と重なりレジュメ作成に間際まで手が付けられなかったこと、レジュメを書こうとパソコンに向かえば、課題設定や先行研究の調査が不十分である点が目に付き、途方に暮れたことなどを思い出します。

そのような状態でしたが、その時点で考えていることを文字にすることで、漠然とした課題意識を少しは明確にすることができたように感じています。また、先行研究の調査、情報収集などの事前準備が論文作成には欠かせないことを体感できました。同じ轍は踏まない、と心に固く誓います。

様々な課題意識を持った他の院生の発表や先生からの質疑応答を通じて、自分の課題意識にとどまらない新たな視点や気づきも得られ、このような環境で勉強をできることをうれしく思いました。御指導くださった先生方、励ましあった院生のみんなに心から感謝申し上げます。



# 前

期授業期間中に行われたコミュニケーションワークショップ、協働ワークショップと  
夏休み前に行われたPCM研修の三つの集中科目についての報告です。

## コミュニケーション・ワークショップ & 協働ワークショップ演習



### コミュニケーション・ワークショップ

今回のCWS演習を受講し、議論の場でのファシリテーターの役割の重要性を再認識しました。演習ではグループワークとして、実際にファシリテーターの入った議論を行い、その工夫や振舞いから議論進行の手法を学びます。グループワークでは非常に多くことを学ぶことができ、日常のコミュニケーションから、実務の現場領域まで活用できるものだと思います。  
(政策学研究科 戸崎 翼)

### 協働ワークショップ

協働ワークショップ演習は3チームに分かれて、ある課題に対して産学官のセクター間を越えたマルチパートナーシップのプロジェクトの設計を通して協働型社会について考えるものです。今回の演習では特に課題に対してのステークホルダーのとらえ方、考え方について学ぶことができ、今後の活動にも生かしていきたいです。(政策学研究科 辻 賢)

## PCM研修

私は今回 JICA 研修の一環である PCM 研修に3日間参加させていただきました。PCM (プロジェクト・サイクル・マネジメント) は計画、実施、評価の三つのプロセスからなるプロジェクトのライフ・サイクルを PDM (プロジェクト・デザイン・マトリックス) と呼ばれる概要表を用いて運営管理し、話し合いを論理的に進めることができます。また可視化することで話し合い自体の透明性も確保することができる話し合いの手法の一つです。参加者は政策学研究科の院生以外は主にアジア圏の公務員の方で、PCM 手法自体の学習に加え語学力の面でも鍛えられた研修でした。今後得たものを自分の研究や日常行う話し合いなどに活用し、より論理立った考え方ができるようにしていきたいです。

(政策学研究科 植村 暢子)



JICA 研修の一環での、PCM 研修の一コマ

# 早期履修生です。 宜しくお願いします。

早期履修制度とは、政策学研究所への進学を希望している政策学部生に、大学院科目を4回生時に履修する機会を提供することで、学部生が目的意識と計画性をもって大学院進学への準備を行うことをサポートする制度です。本年度、政策学部第1期生が4回生を迎え、現在10名の学部生がこの早期履修制度を活用して、大学院生とともに学んでいます。

## 能動的な授業への参加

永末晃規

早期履修生の永末です。学部では井上ゼミに所属しています。学部よりも高度で複雑な授業を受け、卒論の内容をさらに深めることを目的に、この制度を活用させて頂きました。

研究科の授業は学部より少人数で行われ、能動的な授業参加が求められるので緊張感がありますが、知識と思考力が共に養われているのを実感します。

## 院生の皆さんと 共に学べることを心待ちに

石川桃子

奥野ゼミで憲法学を学んでいます。研究テーマは子どもの貧困と日本国憲法です。政策学研究所に進学を希望していたため、後期より早期履修制度にお世話になります。また実際に授業を受けたことはありませんが、院生の皆さんとともに学べるのを心待ちにしています。早期履修、進学後ともどもよろしくお願いします。

## 大学院に進学する ことを決めて

是枝加奈子

今回早期履修を受講した目的は、大学院に進学することを決め早期履修の制度を知ったからです。授業は少人数で構成されているため、学部との授業とは違い考える時間が多くあり、大学院生や社会人院生など様々な考えを聞く良い機会になりました。学部生の段階で受講ができ今後の勉強の参考になりました。

## 都市計画をより深く 研究するために

大西妃歌

ゼミでも専攻している都市計画をより深く研究するために都市計画論演習を履修しました。学部の授業よりも自らの考えを主張したり、思考をめぐらせていく形式の授業形態はとても大変でしたが、勉強になったと思います。

## テーマを深く 掘り下げることができる

藤野里咲

私が早期履修を受けようと思ったのは、ゼミの担当教授の阿部先生の講義を受けて、より学びを深めたかったからです。大学院の講義は、学部とは違って少人数で議論をしながら進めていくスタイルで、1回の講義ごとにテーマの内容を深く掘り下げることができるということと、一人一人の発言が講義をよりおもしろくしていくということが印象的でした。



## インターンシップ報告

政策学研究所 奥上 祐介

私は8月から約半年間、亀岡市役所 総務部安全安心まちづくり課にインターン生として関わらせて頂くことになりました。インターンが始まってまだ1ヶ月しか経っていませんが、専用の机を用意して下さるなど本当に一職員として迎え入れていただき、高校生の頃に経験した「職業体験」とは違った責任感を感じています。

また、勉強をしたことがあることでも、やはりそれは一般論に留まってしまっていて、その地域に即した対話ができていると感じることが多々ありました。普段の勉強からいかに現場感覚を持って臨めるか、そしてまた業務での課題を学びにつなげられるかを意識しながら、自分なりに出来る精一杯の努力をしたいと思います。



## 公開講演会レポート

第1回

### 自由・自治都市 堺の挑戦 ～なぜ、私は大阪都構想に反対なのか～

講師：堺市長 竹山 修身 氏

公務員出身の政治家は、公務員時代のイメージとして強く残るが、竹山氏の講演後、そのイメージが変わった。感じたのは政治家というよりセールスマンとしての印象である。堺市を「売り出す」トップセールスに力を入れるかの如く、縦横無尽に働いている様子がイメージできる。その中でも特に「3つのDNA」というフレーズは、私自身が過去に堺市に住んでいたこともあって非常に共感するものだ。冒険者のDNA、ものづくりのDNA、多様性を受け入れるDNAという3つのDNA。竹山氏が市長として堺市の歴史・文化・気質をアピールする姿から、堺のDNAを感じる講演であったことが印象的だった。  
(政策学研究科 田村恭二)



第2回

### 何度でもやり直しのきく社会をつくりたい ～若者とホームレスのおっちゃんて街を変える～

講師：NPO 法人 homedoor 理事長 川口 加奈 氏



NPO 法人ホームドアは、ホームレス状態になりたくないにも関わらずそうならざるを得ない状況や、ホームレス状態から抜け出したいと思っても抜け出せない状況、ホームレスの人々への偏見がなくなり、襲撃事件が後をたない状況を、いくつかの取組によって解決していこうとされている法人です。話を聞いて、一番印象に残っているのは、「知ったからには知った責任がある」という言葉です。これは、ホームレス問題に限ったことではなく、普段の日常生活の中でも言えることなのだと思います。気づいたからこそできること、また、やらなければならぬことについて、自分の仕事に対して、初心に戻って考えるきっかけをいただきました。  
(政策学研究科 沢井加織)

第3回

### 低炭素社会のための「持続可能な消費」モデル

講師：欧州経済社会評議会「運輸・エネルギー・インストラクチャー・情報化社会局 (TEN)」局長 エリック・ボンデュール 氏

環境に対する負荷を減らすことは重要だと考える一方で、生活の中では安価や便利さ、あるいはデザイン性などを選択した行動を取っていることも多々あります。人はなかなか理念通りの行動をとれる訳ではありません。今回のお話しにあった、Sustainable consumption (持続可能な消費) という考え方は、「環境を取るか、消費をやめるか」ということではなく、「環境に配慮した消費の在り方を見つける」ということなのでしょう。最初は環境の話と思って聞いていましたが、実はそれに限らず、利害が一致しない中で問題解決をする際に、物事を二元論的に捉えるのではなく、どのあたりで折り合いをつけるかということが現実的に前進する方法なのだと思います。  
(政策学研究科 大熊晋)



## 修了生の今

若生 麻衣 (2011 年度政策学研究科修了生) 京都精華大学 障がい学生支援室勤務



前列右が若生さん

### からし種を蒔く日々

2014 年 4 月から、京都精華大学障がい学生支援室に勤務しています。大学における障がい学生在籍率は、全国で 0.42% (約 1 万 3,000 人)。年々増加傾向にあるなか、発達障害は前年比 1.3 倍\*と顕著ですが、これは精華大学も同様です。修学支援を基軸に、生活・就労等の個別課題を学生とともに考え、目標設定と解決にあたっています。

精華には、個の差異をすうっと受け容れる空気感があります。学生とワークショップをすると、イラストが言葉を圧倒。発表がインスタレーションになります。合意よりも、一人ひとりの発想を楽しみ、大事にしているようです。

表現の大学・精華らしい障がい学生支援とは何か。学生や教職員との面談は、課題と希望が同時に刷新される時間です。一粒ずつ、からし種を蒔いています。

\*独立行政法人日本学生支援機構、平成 26 年 3 月「平成 25 年度 (2013 年度) 大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査結果報告書」

## 事務局インフォメーション

### ●地域リーダーシップ・先進的地域政策研究 講演会

○第4回 10月4日(土) 13:30~15:00

講師：西岡正次氏(豊中市健康福祉部福祉事務所企画グループ主任)  
テーマ：全国が注目/就労と福祉をつなぐ自治体政策・豊中モデル  
～生活困窮者自立支援制度の施行をまえに～

会場：深草学舎22号館2階204教室

### ●NPO・地方行政研究コース協定先懇談会を開催しました。

7月23日(水)、深草学舎にて協定先懇談会を実施いたしました。当日は27団体からご参加を賜り、第1部では「NPO・地方行政研究コースの取組と協定団体との意見交換」をテーマに2015年度推

薦入試の概要、法学研究科・政策学研究科の特徴について説明、その後、活発に意見交換がなされました。第2部では「地域公共人材を目指して」をテーマに「地域公共政策士」新フレームワークの導入について説明がなされ、地域公共人材育成に関する意見交換がなされました。

### ●NPO・地方行政研究コース協定先推薦入試スケジュール

- ・事前審査出願期間 2014年10月9日(木)~15日(水)
- ・本選考出願期間 2014年11月10日(月)~17日(月)
- ・試験日 2014年11月29日(土)
- ・合格発表 2014年12月15日(月)

NPO・地方行政研究コース ニュースレター「グローバル通信」通巻 34 号 2014 年 10 月

発行/龍谷大学大学院 NPO・地方行政研究コース  
連絡先/政策学部教務課  
TEL: 075-645-2285 FAX: 075-645-2101

H P / [http://www.ryukoku.ac.jp/gs\\_npo/](http://www.ryukoku.ac.jp/gs_npo/)  
編集/片岡華絵、植村暢子  
編集補助/中西美也子  
監修/大矢野修、土山希美枝、的場信敬  
印刷/株式会社 田中プリント